

第19回 鈴鹿病態薬学研究会

「COVID-19とmRNAワクチン: ワクチン研究の新展開」

講師： 七戸 新太郎 先生

大阪大学微生物病研究所

感染機構研究部門 分子ウイルス分野 助教

日時： 令和5年2月22日(水) 17時より

会場： 鈴鹿医療科学大学（白子キャンパス）1号館 1701教室
ZOOMによるライブ配信（ハイブリッド開催）

mRNAワクチンの開発研究の最前線について、わかりやすく解説していただきます。
奮ってご参加ください。
ライブ視聴をご希望の方は、事務局(nakayamh@suzuka-u.ac.jp)までメールしてください。

主催： 鈴鹿病態薬学研究会(代表:鈴木 宏治)

共催： 株式会社 メディカルー光

事務局(問い合わせ先): 鈴鹿医療科学大学薬学部 医薬品開発学研究室 中山 浩伸

TEL 059-340-0606 e-mail nakayamh@suzuka-u.ac.jp

第 19 回 鈴鹿病態薬学研究会

日時:令和 5 年 2 月 22 日(水)17 時より

会場:鈴鹿医療科学大学(白子キャンパス)1 号館 1701 教室

ZOOM によるライブ配信(ハイブリッド開催)

演題:COVID-19 と mRNA ワクチン:ワクチン研究の新展開

講師:七戸 新太郎 先生

大阪大学微生物病研究所 分子ウイルス分野

要旨

2019 年末に出現した新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) は、瞬く間に世界中に拡がり、パンデミックを引き起こした。SARS-CoV-2 感染症 (COVID-19) に対抗するため、世界中で様々なモダリティのワクチン開発研究が進められ、複数のワクチンが実用化されている。現在、国内で主に接種されている mRNA ワクチンは、標的とする抗原蛋白質をコードする遺伝子配列が明らかになれば、短期間で産生することが可能で、COVID-19 のような新興感染症に対して迅速に対応することができる。また mRNA ワクチンは、今回のパンデミックにおいて、予想以上に高いワクチン効果を示しており、次世代を担うワクチンモダリティとして大いに期待されている。本研究会では、COVID-19 に対する mRNA ワクチンについて情報を整理するとともに、その応用展開についても論考したい。

主催:鈴鹿病態薬学研究会(代表 鈴木 宏治)

共催:株式会社 メディカルー光

事務局(問い合わせ先): 鈴鹿医療科学大学薬学部 中山 浩伸

TEL: 059-340-0606, e-mail: nakayamh@suzuka-u.ac.jp